

学びのプロセスを重視した授業設計

～第1学年「総合的な学習の時間」～

成田 健之介 *1

「情報活用の実践力」にかかわる基礎的な学習スキルを育てるために、「総合的な学習の時間」の年間カリキュラムの中に数回のプロジェクト学習を埋め込んだり、教科での情報活用の活動場면을計画的に設定したりした。1年間のこうした学習活動の繰り返しによって、学習スキルをスパイラルにスキルアップさせ、「方法知」を習得させる実践の経過を報告する。

<キーワード> カリキュラム, 情報活用の実践力, スパイラル, スキルアップ

1. 実践のねらい

プロジェクト学習の場を設定して「課題の意識化→調べ活動→情報の整理→情報の伝達・発信→振り返り」という学習サイクル（PDSのサイクル）を意図的にカリキュラムに埋め込み、1年間に複数のサイクルを計画して、学習スキルをスパイラルにスキルアップさせていくことをねらいにした。

2. 基本的な指導の方法

本年度の第1学年の「総合的な学習の時間」は、地域を素材とした「庄内川プロジェクト Part I」、夏の自由研究を素材にした「自由研究ガイダンスと事後指導」、庄内川プロジェクト Part II」計画した。また、第1学年の前期に、週1時間で、プレゼンテーションを中心とした「表現基礎」を実施した。

こうして、1年間に大きなプロジェクト学習の流れを3回にわたって繰り返し、同時に並行して、前期には「表現基礎」を計画する。

3. 年間指導計画中のプロジェクト学習

- (1) 「地域」を素材としたプロジェクト学習
 - ・庄内川プロジェクト Part I 4月～6月
 - ・庄内川プロジェクト Part II 9月～3月
- (2) 夏休みの自由研究を利用したプロジェクト学習 <6月～9月>
- (3) 「表現基礎」（表現活動を中心にしたプ

ロジェクト学習)

「ポスター作り」と「3分間スピーチ」というプレゼンテーションを重点に置いたプロジェクト学習を進める。 <4月～10月>

4. 指導の方法と内容

(1) 地域を素材としたプロジェクト学習

庄内川プロジェクト

地域を流れる庄内川を素材にして、新しい視点で地域を見直し、庄内川を身近に感じるための「庄内川プロジェクト Part I」の活動で学級全体の活動を進めた。

2学期以降は、川に関わるテーマ別の探究活動「庄内川プロジェクト Part II」によって、個々の生徒が自分の学習課題を調べて、まとめて発表する。

庄内川プロジェクトPart I

<課題意識化・情報の整理> (4月～6月)
庄内川を観察しよう <学年・学級>

- ① 課題の意識化（連想マップ）
- ② 体験活動（観察）
- ③ 情報の整理とまとめ

庄内川プロジェクトPart II

<情報の収集～発信> (9月下旬～3月)

- 【少人数のテーマ別探究学習】<個人>
- ① テーマ別小グループ探究活動
 - ② 発表・情報発信活動

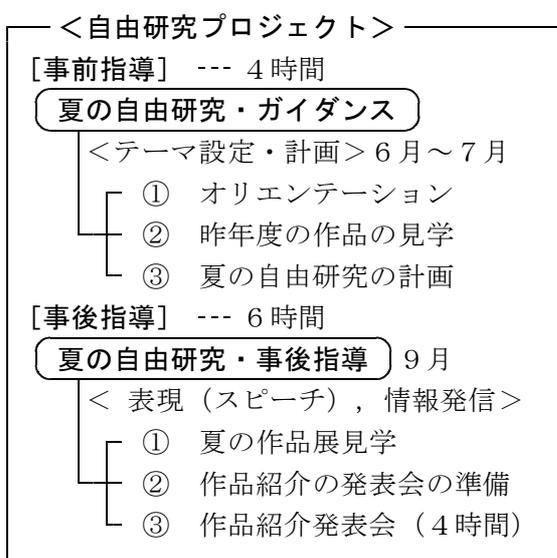
*1 名古屋市立助光中学校 (narita@ff.iij4u.or.jp)

テーマ別活動のテーマ例

- A. 自然, B. 環境, C. 歴史
- D. 交通, 橋, 堤防・・・
- E. 治水, 水害, 水害対策・・・
- F. 河口までを調べよう
- G. 上流・水源を調べよう

(2) 夏休みの自由研究を利用したプロジェクト学習

「夏休みの自由研究」のための事前指導と事後指導を、年間の「総合的な学習の時間」に位置付けた。



(3) 「表現基礎」でのプロジェクト学習

- ・「グループ DE ポスター」（4月～7月）
第1学年の4月から、「情報を分かりやすく伝える」ための活動として、グループによる「壁新聞」作りのプロジェクトを進めた。
- ・「3分間スピーチ」（9月～10月）
1学期の国語科の1分間スピーチを発展させて、「話して伝える」活動を計画する。

(4) 教科との関わり

「総合的な学習の時間」のプロジェクト学習と並行して、各教科でも情報活用の実践力に関わる学習活動を年間計画に組み込んだ。

1学期には、理科の植物校内観察活動での「デジタルカメラでの植物図鑑作り」、国語科の「1分間スピーチ」、技術家庭科の「デジカメで自己紹介」、社会科でインターネットを使った「世界の地域調べ」を実施した。

教師が意図的に、「生徒に暗示的に操作スキルや情報リテラシーを身につけさせる場面」を作った。こうした教科での利用と学びのプロセスを重視したプロジェクト学習が相乗的に、情報活用を身近な活動にしていくと考えた。

2学期以降も、社会科での調べ学習やWeb作成、技術家庭科でのプレゼンテーション学習、国語科でのコミュニケーション活動等に関連をもたせていく。

5. 1年「総合的な学習の時間」年間計画

日	活動計画	
4/19	オリエンテーション	
4/26	課題の意識化 庄内川連想マップ作り 1	表現基礎
5/23	観察・体験 庄内川観察	
5/24	情報の整理・表現・伝達 ＜分類カードへの記入＞	
5/31	＜情報のまとめ＞	
6/7	庄内川での「発見」を絵地図で表そう [絵地図作り] 庄内川連想マップ作り 2	
6/17	「自由研究」ガイダンス	
6/28	「自由研究」テーマ決め 校内掲示板や廊下の作品を見学	
7/5	「自由研究」学習計画 作る・調べる・体験コース別の計画とアドバイス	
夏期休業		
9/6	「自由研究」発表準備 発表の流れ, 方法, 原稿	
9/10-11	作品展見学	
9/12	表現・伝達 < 4時間 >	
9/13	「発表会」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	
9/27	テーマ設定・計画	
10/4	テーマ説明とグループ化	
10/11	テーマ別ガイダンス	
10/25 ～	テーマ別グループ活動① 2時間×7回	
12/13		

冬期休業	
1/10 ～ 2/7	テーマ別グループ活動② 2時間×4回
2/21	発表の準備 I 機器
3/5	〃 II の
	〃 III 利用
	〃 IV
3/14	全体でのグループ別発表会
	〃 ・振り返り

6. 1学期の学習内容

(1) 庄内川プロジェクトPart I

① 学習のねらい

身近な素材である庄内川を使って、課題意識をもって観察して、その結果をカテゴリーに分類したり絵地図として表現したりして、課題追究学習のサイクルを体験的に学ぶ。

② 活動の内容

ア. 連想マップ作り1 <課題の意識化>

課題を意識化させるためのブレインストーミングとして、連想マップ法によってテーマに広がりをもたせた。この活動によって、次のような意識化を図ることができた。

- ◎ 自分の活動が、全体の中でどんな意味があるのか。
- ◎ どんな順序で活動を進めればよいか。
- ◎ どんな資料や情報が必要か。

[活動内容]

連想マップの中心テーマを「庄内川を調べるには？」として、小分岐テーマとして「自然」「災害」「環境」「歴史」の4テーマを設定した。それぞれから、連想する言葉や行動などを線をつなぎ、連想を広げられるようにした。

イ. フィールドワーク <体験的学習>

庄内川に実際に出かけるフィールドワークを通して観察する力を高めた。観察地点は、河川敷の散策通路と自然の環境を利用して作られたビオトープ実験地になった。

45分間の観察時間を使って、植物・動物や環境、川や橋の様子、ビオトープの様子な

どをワークシートの観察メモに記録した。



ウ. 庄内川絵地図作り <整理・発表活動>

観察した事柄を学級全体で出し合って関連項目ごとに、植物や動物、治水や環境などの各カテゴリー分類していった。教師が庄内川の観察地点の簡単な絵地図を模造紙に準備し、生徒は、観察メモや観察の印象を付箋紙にまとめて、それぞれの観察地点を示す絵地図上に貼っていった。各自が気づいたことを付箋紙にどんどん書き込んでいったり、イラストを描いたり色をつけたりして、絵地図を完成させていった。



エ. 連想マップ作り2 <振り返り活動>

この活動の最後に、4月と同じ連想マップ作りに取り組みさせて、その変化を調べた。

連想マップ2からは、次の変容が見られた。

- ・具体的な連想項目が増加した。
- ・川に関わる連想が強くなった。
- ・イメージの広がりが見られる。

③ 「庄内川プロジェクトPart I」の学習の成果

「庄内川プロジェクトPart I」では、自分の課題を現地で観察したり、観察によって新たな課題を見つけたりする活動で、知らないことが分かるという「学びの喜び」を体感させることができた。ワークシートの自己評価には、庄内川についての興味関心が高まっていることを示す感想が書かれている。このように、身近な素材である庄内川についてのフィールドワークは、課題から伝達までの一連

のプロジェクト学習のプロセスを意欲的に取り組ませるのに役立った。

(2) 自由研究プロジェクト

① 学習のねらい

夏休みの自由研究にむけて、個人のテーマを決定することから始まって、研究の計画、調査やまとめる方法、「作品発表会」でのプレゼンテーションまでの「調べ学習の手順」を学ばせることをねらいとした。

② 学習活動の内容

ア. 自由研究ガイダンス<課題の意識化>

学年全体の一斉指導で「夏の自由研究」の概要を説明した。調べ学習を中心にした「調べてみよう」、体験した活動をまとめる「体験活動レポート」、製作活動を中心とした「作ってみよう」の3コースについて、担当の教師がレクチャー形式で説明した。

- ① 昨年度の優秀な作品を実際に見せながら指導した。
- ② 調べ方からまとめ方までの手順を、具体例をもとにしてイメージさせた。

イ. 個人テーマの決定 <課題の決定>

ワークシートを使って、各自にテーマについてのブレインストーミングをさせた。各自がイメージしたいくつかのテーマについて、グループ内で検討したり、個別に他からのアドバイスを受ける時間を作った。こうしていくつかのテーマの候補から、1つのテーマに絞り込ませて、仮テーマを決定させた。

ウ. 学習計画作り<探究方法や計画>

ワークシートを手だてにして、自分自身のテーマを追究するための計画を作成した。、夏休みという長期の休業を生かすようなアドバイスや、完成予想図・具体的な準備などを考えさせることによって、具体的な探究のイメージをもたせた。

(3) 「表現基礎」

「グループ DE ポスター」(4月～7月)

資料をまとめて分かりやすく伝えるために、グループによる「壁新聞」作りを行った。

[ねらい]

この表現基礎では、「情報のまとめ方」「レイアウト」「色遣い」「見出し」などの基礎

を、担任と表現基礎担当教師2名の合計3名のティームティーチングによって指導した。

[学習の概要]

- ① 前年度の上級生の作品を参考とさせた。
- ② 課題についての資料を配付し、与えられた課題について分かりやすくまとめる活動に取り組んだ。
- ③ 各グループで模造紙1枚の「ポスター」を作った。



6. これまでの学習成果と今後の課題

「課題設定力→調べる力→情報を整理する力→情報をまとめて伝達・発信する力」は、繰り返し学習することによって、スキルアップできると考えている。4ヶ月間に3つのサイクルのプロジェクト学習に取り組ませることによって、学習のプロセスを予測できるようになってきた。また、教科での情報活用の実践力に関わる学習活動との連携により、操作スキルはもとより、繰り返しによるスキルアップの向上が相乗的に働いた。

1学期の実践では、グループで与えられた課題に取り組んだり、「絵地図」や「壁新聞」という限られた表現方法での活動で基礎を培ったが、2学期以降は、個々の課題に対して個々の調べ活動や表現方法に取り組ませたい。現時点では、生徒の評価カードやアンケート、イメージマップでの変化を用いた総合的な評価しか実施していないが、今後、各観点での生徒の高まりを測定する評価を取り入れ、確かな学習効果を確認したい。

